



岸本周平  
Kishimoto Shuhei  
中央大学客員教授

<http://www.shuhei-k.jp>

# 地方議会の足腰問題

和歌山県は保守王国で、自民党が圧倒的に強い地域です。衆議院議員3名、参議院議員2名の定員はすべて自民党の政治家さんです。私が昨年出馬した和歌山第1区では、これまで民主党の候補者すら出せなかったほどです。和歌山県議会を見ても、民主党の県会議員はゼロで、党推薦議員が一人いるだけです。和歌山市議会ではただ一人だけ、民主党公認で当選した市会議員がありますが、会派届けは民主党推薦議員数名と一緒に「民主クラブ」という形で行っています。

民主党は足腰が弱いといわれていますが、わが和歌山県はその中でも特に地方議会に足場のない地域です。これでは、私の当選は次回の選挙でもおぼつきません。民主党の地方議員を少しでも増やすのが最重要課題です。

来年の4月には統一地方選挙が予定されています。私が代表をしている和歌山県連では、公募方式で県議会、市町議会の候補者を募集しました。幸い15名の応募があって、論文審査、面接審査行いました。外部の有識者も入った審

査委員会で審査しましたが、これから常任幹事会に測って、8月上旬には発表したいと思っています。なかなか良い候補者が集まりました。

一方で、7月30日投票の和歌山市長選挙に、現役県会議員2名が立候補した結果、同じ日に県会議員の補欠選挙が行われることになりました。2議席を3人で争う少数激戦の補欠選挙になる見込みですが、わが民主党和歌山県連の歴史上初めて公認候補を立てて戦うことになりました。候補者は市議会議員2期目で、小学校の先生をしていた女性です。23日の告示までは、政党の宣伝カーで街頭宣伝を行います。もっとも、公職選挙法の規定があるため、直接候補者の名前を連呼したりできませんから、靴の上から足を掻くような感じです。

先日の滋賀県知事選では、3期目を目指す現職に自民、公明、民主の政党が相乗りしたにもかかわらず、「もったいない」をキャッチフレーズに、無駄な公共事業廃止を公約した嘉田由紀子さんが当選しました。争点の絞り方によっては、既成政党には有権者を引きつける魅力がなくなっているのかもしれない。

空疎で抽象的な言葉をもてあそぶのではなく、有権者の心に直接響くメッセージを出せるかどうかが決め手です。「改革」やら「前進」のような手垢にまみれた言葉では、人の心を打つことはできません。そのことは、党派にかかわらず、政治の道を目指すすべての人に突きつけられた課題です。

われらが県議会議員候補者のスローガンは「はじける街にしたいな 和歌山 子ども達に豊かな未来を」です。この拙稿が世の中に出るころには、選挙結果は出ています。私が県連代表として戦う最初の選挙で、和歌山の有権者の心をつかむことができるかどうか!? 読者の皆さん、乞うご期待です。結果は私のブログで見てください。岸本周平ブログ

<http://blog.goo.ne.jp/shu0712/>

